

11月4日にガンの飛び立ち観察会&ラムサールツアーを開催しました。参加者は19人。遠くは東京からご参加いただきました。伊豆沼でガンの飛び立ちを観察し、朝食後同じラムサールサイトである、燕栗沼、化女沼を巡りました。

Vol.102

平成30年12月号

## 豊田合成東日本(株)が伊豆沼で環境保全活動



栗原市高清水に工場を持つ、豊田合成東日本(株)の約80人が、CSR(社会貢献)活動の一環で、10月28日に伊豆沼の観察路整備に取り組みました。暖かな気候の中、マンパワーのお陰で、立派な観察路ができました。観察路周辺には、沼の多様な湿生植物が生育しており、来年度の開花期が楽しみです。



観察路づくり(木材運び)



作業風景(土運び)



完成した観察路

## 新田小の出前講座

新田小学校で出前講座を行いました。11月7日に4年生ではガンやハクチョウなど鳥の観察、11月8日に5年生では地元の伊豆沼でどんな環境問題が起きているのかを解説しました。新田小では学年別にテーマを設けて伊豆沼を勉強しています。

4年生は鳥の観察



5年生への講話



## — ゼニタナゴ、水族館へ！ —



ゼニタナゴの展示の様子  
うみの杜ラボ

仙台うみの杜水族館では、地域の希少生物の保全に取り組んでおり、当財団もその取り組みに協力しています。私たちが保護している伊豆沼のゼニタナゴ約90個体を、10月31日に水族館に提供しました。美しい魚なので、水族館を訪れた際は「うみの杜ラボ」コーナーをぜひご覧ください。 水槽で飼育中のゼニタナゴ ↑



## — 理科の先生方が伊豆沼を見学に来ました —

高等学校で理科を教えている先生方（高校理科生物部会仙北支部）7人が10月24日に研修で伊豆沼を訪れました。生き物に詳しい先生方も、沼の魚や水生植物を見るのは多くの方が初めてです。当財団が取り組んでいるさまざまな保全活動を学び、先生方は「今後の授業に何らかの形で活かしたい」と話していました。

→ 研究員が沼に住む生き物を解説



## — 宮城県ガンカモ類生息調査の現地研修が行われました —

毎年、全国一斉にガンカモ類の生息調査が行われていることをご存じでしょうか。ガンカモ類（ガン類・カモ類・ハクチョウ類）の冬期の生息数や渡来傾向などを把握することが目的で、昭和45年から続く歴史ある調査です。他県では1月のみ調査をしているところ、宮城県では11月と3月にも実施しています。日本最大級のガンカモ類飛来地ゆえの進取的な取り組みです。調査には多くの人手が必要ですし、関係者は専門的な知識が必要です。



そこで毎年、県の担当職員や自然保護員を対象とした現地研修が県主催で開催されます。今年も10月26日、当センターを会場に、25人が参加しました。当センターの鳥類専門職員が講師を務め、鳥種の識別方法や記録の取り方、ガンカモ類の生態などについて講義しました。参加者の皆さんは、種類の多いガンカモ類の識別に苦悩しながらも、熱心に聴いていました。

## — 30周年記念伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト —



伊豆沼・内沼の自然とそれにふれあう人々を題材としたフォトコンテストの作品を募集します。第28回目の今回は、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の設立30周年記念事業で、「伊豆沼・内沼の自然」「伊豆沼・内沼にかかわる人々」のいずれかをとらえた未発表の作品で、撮影した日は問いません。伊豆沼・内沼（堤防から目視できる範囲）で撮影した作品1人1点を、12月1日～28日（郵送の場合は28日消印有効）に、当事務局へご応募ください。最優秀賞には賞金10万円ほか各賞。



## — 伊豆沼・内沼生き物図鑑 オオヒシクイ *Anser fabalis* —



オオヒシクイ

漢字で書くと「菱喰」。水辺でヒシの実を食べるほか、刈田で落ち穂も食べます。伊豆沼・内沼では、マガンに次いでよく見られるガンの仲間です。とくに伊豆沼の西部や内沼の東部に集まっています。マガンに比べてひとまわり大きく、顔が黒っぽく、嘴が黒くて先のほうが橙色であることが特徴です。また「ガハハン」などと聞こえる、マガンよりも濁った太い声で鳴きます。

